



編集長の  
注目ポイント

# インテリアコーディネーター

## どう稼ぐ?

フリーとして活躍できるほか  
モデルルームなどで力を発揮

有資格者は目黒さんのようにフリーのインテリアコーディネーターとして、モデルルームや住宅・店舗の内装を手掛けるほか、モデルルームなどでの内装提案、家具や雑貨のショップスタッフとして専門性を発揮している。

## どう学ぶ?

論文とプレゼンの2次試験が  
資格取得の重要ポイント

試験は合格率31.0%。2次試験のプレゼンは課題に沿ってインテリア計画を立てて図面に起こすもので、製図の知識も求められる。スクールなどでしっかりした対策をすれば十分なため、合格者の6割を業界以外の未経験者が占めている。

## どんな 資格

家具や照明、カーテンなどをコーディネートし、住む人のニーズに応じた住空間を作るスペシャリストの資格。インテリアと住宅構造の知識を駆使してプランを作り、動線や雰囲気、予算といったクライアントの要望を叶える。

「あるとき女性インテリアコーディネーターの仕事を目にする機会があったのですが、その姿がとても素敵だったんです。仕事柄、インテリアを見にイタリヤへ行く機会もあり、次第に『私も資格を取って、自分でインテリアをコーディネートしてみたいなあ』と思うようになりました」

30歳のとき、仕事で出会った人脈から簡単なインテリアコーディネートや製図の仕事が頼まれるようになり、目黒さんは参考書や過去問題集を何冊も購入し、仕事を終えた夜に独学で勉強したという。そして1年後、31歳で試験に合格する。

27歳から海外インテリアの輸入代理店で働いていたという、目黒さん。住宅展示場やモデルルームにインテリアを卸したり、インテリアコーディネーターの書いた図面をCADで製図したりしていたという。

## 住宅展示場などの コーディネートに憧れ 資格取得を決意

### インテリアコーディネート現場では「持っていて、当然」とされる資格。取得後はお客様からの信頼が厚くなりより大きな仕事を任されるように



目黒裕子さん(38歳)

06年取得。年々仕事が増え、10年に「株リベラルデザイン」を設立。  
<http://www.liberaldesign.jp/>

## 資格取得によって 自信を持ってプランを 提案できるようになった

「資格がなくなるともコーディネーターの仕事はできませんが、一方で業界では資格は『持っていて、当然』と考えられています。自信をもって仕事をするためにも、必要だと思いました」

「私の場合、前職のときにCADで

### お客様の要望はもちろん、 予算やスケジュールなども 考えたプランを、自信をもって 提案できるようになりました。



目黒さんの仕事ぶりに満足したお客様が、新たなお客様を紹介してくれるなど、人との縁から仕事が増えていっているという。

製図をしたり、現場を見たりする機会があったので独学でも何とかできたのでしよう。未経験の方が資格をめざすなら、スクールなどで現場を知る先生から学んだほうが良いと思います」

資格取得後、内装設計も手がけるようになり、少しずつだが任せられる仕事の規模が大きくなっていったという。2010年には会社を設立。今はマンションや住宅のリフォームやモデルルームのコーディネート、クリニックの内装などで幅広く活躍している。

「資格がなかったときと比べると、自信をもってコーディネートプランをご提案できるようになったと思います。自分のコーディネーターによって、お客様が笑顔になったり、モデルルームの契約数が動いたりするのが、本当にうれしく、大きなやりがいです」